



今月のリポーターは、濱祥子さんです。

# 中央支所レポート 19 旭志発見!!

5年未満の職員が、地域や農業、農協について興味・疑問・不思議など「何これ?」と思ったことをレポートします。



### 【自己紹介】

入組3年目、旭志中央支所金融共済課貯金係に所属しています。カフェ巡りや、家で映画を見てゆっくり過ごすことが好きです。出身は泗水町。旭志の気になるところを旭志出身の平山大剛課長に案内してもらいました。

## 地元農家さんが立ち上げた福祉事業所へ

旭志麓に「まんしん未来」という福祉事業所があります。知的・精神・身体に障がいを持った方、若年性認知症、引きこもりなど、心や身体が傷ついた方たちが農業を通じて心身を回復させることを目的とした、地域に寄り添った農業と福祉が連携している就労継続支援B型事業所です。令和3年4月に創立されています。

### 代表の工藤満雄さんにインタビュー

**Q:農福連携を始めたきっかけは?**

**A:**農業者の高齢化、後継者の減少と農業の将来を考えたとき、支援学校などと繋がる方法はないかと考えていました。受託作業するにはどうすればいいか?様々な研修会に参加し、このような事業をされている現場にも出向きました。そこで同じ想いの方々に出会い、協力をいただき、地域農業の力にもなればと、地元で立ち上げることが出来ました。

**Q:大変なところは?**

**A:**利用者さんたちは、それぞれに違う個性を持っています。一人一人の個性を考え、やりたいこと、できることに寄り添い、その人に応じた仕事を見つけることが大変です。仕事をして給料をもらう喜び、やりがいを持ってもらいたいので、根気強く見守り言い続けることを心がけています。

**Q:今後取り組みたいことは?**

**A:**農商福連携・農泊連携・生産物を利用した6次産業化と夢は膨らみます。ここで働いている方たちの一人一人の尊厳を大切にしながら、その人にあった接し方を工夫しながら進めています。近くのお宮掃除をしたりと、地域の方々とのかかわりも増やしていければと思います。

### お話の中で感動を受けた言葉

「一隅を照らす(いちぐうをてらす)」

社会に生きる私たち一人ひとりが自分の役割を認識して、できることを一生懸命やっという意味です。置かれた場所がどんな場所でも光るような生き方をすること。光がともれば、まわりも明るくなります。一人の生き方や心がけは、まわりにも伝わります。一人ひとりの力がやがて、世の中を明るく照らすことになるのです。感動です。

「WIN-WIN」の関係ではなく「Happy-Happyの関係」

勝ち負けや上下関係ではなく、お互いが必要とし必要とされること。協力し合い、尊重し合い、お互いの幸せをしっかりと追求する関係です。感銘を受けました。

### まとめ

事業所に訪れると利用者さんのあいさつがとてもよく、元気で明るく「私も負けてられない!」と思いました。地域のためにここまで考えていらっしゃる組合員の方に、何かJAでも協力できることがあるのではと考えさせられました。旭志には、アイスのお店「ツインスター」やカンガルーのいる「四季の里」、鞍岳を望む「湯舟の堤」など自然豊かな楽しい場所もあり、探索することもできました。平山課長、ご案内ありがとうございました。



平山課長



作業の様子



工藤さんご夫妻と



webサイト



instagram

一般社団法人 まんしん未来  
〒869-1202 菊池市旭志麓2524-1  
電話 096-349-3177  
✉ manshinmirai2020@gmail.com